

○質疑（三好委員） それでは、ただいま御説明いただきました資料番号2、ひろしまイノベーション推進機構の投資決定に関連して、幾つかお尋ねさせていただきます。

今回、サンエーが第2号の投資先に決まったということでもありますけれども、具体的な話に入る前に何点かお聞きします。まず、第1号投資の現在の状況についてであります。昨年、当委員会でも参考人招致をいたしました第1号投資の株式会社オー・エイチ・ティーについて、投資決定から1年が経過するわけでもありますけれども、オー・エイチ・ティーの投資に係る事業実施状況について、現在どのようになっているのか、お伺いいたします。

○答弁（産業政策課長） オー・エイチ・ティーへの投資事業の状況についてお尋ねがございました。

オー・エイチ・ティーについては、4月にNHKの番組でも投資事業の状況を報道されたところですが、当初、投資決定をした際に計画していたとおり、廉価版の商品開発をするということの一つの目的としておりました。この商品開発を行った上で、実際中国マーケットについてどう展開するかということで、上海の展示会に出展して販路拡大に努めているといった内容でございます。

もう一点は、経営支援を行うということで社外役員3名を派遣すると同時に、担当者1名が週2～3回現地に参りまして技能を指導しているところでございます。具体的な成果も出つつあると伺っておりますし、ちょうど報道の内容でも現場で議論される姿が報道されて、具体的な経営改善のあり方といったものが多くの方に御理解いただいているのではないかと考えております。

○要望・質疑（三好委員） 具体的な成果も出つつあるとお聞きしているということでもありますけれども、当初より言われているように、県としてもしっかりと見ていっていただくということをお願いしたいと思います。

本来は投資でありますから、長い期間で企業を育てていくということが大きい目標なのだろうと思いますが、このファンドにつきましては、一方で県民の厳しい目が注がれているわけでもありますので、投資に対する効果というものも非常に強く求められると思います。そういったことを意識して、鋭意取り組んでいただきますよう御期待いたします。

続きまして、今回の第2号投資に関連しまして、今後の投資の見込みについて、まずお聞きいたします。

今回の第2号投資につきまして、投資に至った経緯は先ほど御説明がありましたけれども、ことしの2月から本格的な検討を行い、4月25日に投資決定がされたということでもあります。第1号投資から1年が経過するわけですが、先ほどの説明の中では、サンエーも以前から相談があったということをおっしゃられておりました。その中で慎重な調査及び審査を行って、2～3カ月の短期間で投資が決定されているわけでもあります。

こうしたペースを考えますと、本来もっと早く次の投資が決定しても不思議ではなかったのではないかと思います。結果的に期待できる企業が県内にはなかったということなのか、もしくはこのファンド自体の敷居が高いということなのか、もしくは魅力がないということで皆さん応募されないのか、そういったことで、今後投資案件が順調に伸びていくのかということをご心配しているところでもあります。そこで、現在の投資案件の相談状況、検討状況など、今後の投資の見通しについて伺います。

○答弁（産業政策課長） お尋ねがありました現在の状況をお話しする前に、サンエーの状況ですけれども、先ほど申し上げたとおり、本格的な担当はこの2月からということではございますが、相談につきましては昨年11月から寄せられていたところです。サンエーについては、具体的な引き合いがあって早急に量産体制を立ち上げるという議論もございまして、短い期間に本格的な検討・調整を行って投資決定に至ったという事情がござい

ます。それに引きかえ、ほかの案件はどうかということで、幾つもお尋ねいただき、累計で言えば、これまで申し上げたとおり150社余りと接触し、90社とさまざまな相談をしているということではございますけれども、現下の情勢で申しますと、複数の案件について本格検討していますので、相手方とのいろいろな交渉などもあります。順次タイミングを見ながら適宜決定されていくと考えてございます。

○質疑（三好委員） 今後の状況等について教えていただけたらと思います。

○答弁（産業政策課長） 具体的な時期や企業名はちょっと申し上げにくいですが、現在交渉している可能性があるかと伺っておりますので、決定され次第、改めて御報告、御説明してまいりたいと思っております。

○要望・質疑（三好委員） 承知いたしました。何か2～3カ月ということで、大分急な感じがしたのでお聞きしたところでもありますけれども、こうした多くの相談があるということでもありますし、ファンドはしっかりあるわけですので、いいところにはきちんと投資ができるよう鋭意よろしく伺います。

次に、今回のサンエーの尿素選択還元型触媒システムのシェア等についてお聞きいたします。先ほどディーゼル車の排ガス浄化に使用されるとの説明がありましたけれども、国内、そして世界において、ディーゼル車に対するこのシステムが現在どの程度採用されているのか、また、搭載されているのか、お尋ねいたします。

また、この触媒システムの一部である尿素水識別センサーについて、他社にはまねのできないものなのかどうか、市場全体のシェアについてもあわせて伺います。

○答弁（産業政策課長） まず、今までどの程度採用されたかということですが、累計で言いますと6万5,000台が採用されていると伺っております。

それから、今後他社にない強みということですが、尿素水識別センサーについては、熱伝導方式あるいは超音波方式など各種方式がありますが、サンエーの技術は熱伝導方式というものでございます。例えば、超音波方式は振動に対して弱いとか、それに対して熱伝導方式は燃料の熱量の伝導率を見てやりますので、より正確であるとか技術的な強みがあり、先ほど申し上げたとおり三井金属からの技術の導入もございまして、他社にない強みのある独自の技術があると考えております。

具体的なシェアについては、今後市場が立ち上がってくるタイミングがございまして、何%ということはマーケットの中で決まってくるわけですが、高いシェアが獲得できると考えております。

○質疑（三好委員） わかりました。

続いて、生産体制、量産体制についてお聞きいたします。資料によりますと、今後の受注状況に応じて追加投資を検討するということですが、そもそも今回の5億円という投資はファンドの規模から考えますと少し低額のようにも思います。本当に成長を見込んでいるのかというような思いも持ってしまうわけでありまして、サンエーはこの投資で国内外のトラックメーカーなどの需要拡大に備えて、センサーの量産体制の設備増強を行うということですが、現在と比べてどの程度の量産を行おうとしているのか、これから市場が立ち上がっていくというところでありまして、全く目測なくということもなかなかよろしくないと思っておりますので、わかればお教えいただきたいと思っております。また、この設備投資は県内の工場を対象にしているのか、海外進出も視野に入っているのかについても伺いいたします。

○答弁（産業政策課長） まず、量産体制の規模でございまして、現状から言うと10数倍の量産体制になります。

それから、量産体制を構築する工場ですが、三次市にある工場になりますので、国内の生産工場ということになります。

○質疑（三好委員） 海外、欧米などには工場をふやされないのですか。

○答弁（産業政策課長） センサーというものですので、あくまで製造拠点としては、今回の投資は三次市で増産工場をつくるためのものです。マーケットとしては、当然欧米を対象にしておりますが、センサー設備を増産する体制については三次市の工場を増産していくという決定をしております。

○要望（三好委員）　しっかりと利益を出していくことは大切でありますし、また、こういうファンドでありますので、県内の雇用がきちんと確保される、ふえていくということが非常に大切な目的だろうと思っております。そういった結果がしっかりと見えるような形になるよう、鋭意取り組んでいただきますよう御要望いたしまして、質問を終わります。